

受講番号 19087 学校名 高岡中学校 氏名 梶原 将一

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年生 生徒数 20名
 科目名 3年生 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 New Horizon English Course Book 3

クラスの様子・特徴

習熟度別コースの基礎・基本コースの生徒を担当している。全体的に落ち着いて授業に取り組み、自分の力に合うワークシートを使って意欲的に授業参加できている。しかし、英語への苦手意識が根底にあり、初めから理解することは難しいと思っている生徒がいる。

問題の確定

英語の学習の中でも「書くこと」への苦手意識が強く、その意識を除くために基本単語を使って自己表現練習を行う。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学カデータ
単語練習、QAを行う際のペアの関わりが弱く、ペアの組み方を工夫する必要があった。英作文の並べかえには意欲的だが、自由作文になると消極的になる傾向がある。音読、インタビュー活動などでは、基本単語の定着ができていないため、時間を要する。	英語に対して苦手意識を持っている生徒が多いが、今年は頑張りたいと思っている。1、2年の学習理解ができてなく不安を感じている。しかし、頑張りたい点は「単語や英文が書けること」「話せるようになりたい」「テストの成績を上げる」とあげている。	CRTテストの結果(全国を100とする)聞くこと(98)、話すこと(90)、読むこと(86)、書くこと(81)。小領域別では「伝えたい内容を考え正しく書く」が(80)と苦手とする項目である。

リサーチ・クエスト

基本的な自己表現の「書くこと」の力を伸ばすためには、どのような効果的な指導法があるか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
授業ごとに、ペアを使って単語の速読を行い、より多くの単語に触れる。また、身近なことのQ&Aを使って表現練習を繰り返すことで、基礎を定着させる。	単元ごとに「Words & Phrases」のシートを配り、毎時間ウォーミングアップとして活用する。「基礎・基本コース」ということで新しいシートを使うときには、読めない単語にはフリガナをつけることも許可して、まずは単語に慣れ意欲的な態度を求めることにした。読めるようになると消し、読める単語を多くしていくことにした。同様にQ&Aの方も意欲的に取り組むために、時間を費やして表現の練習をした。	インタビューテストを行い、1学期には練習と違う表現で質問をされたり、質問順が変われば対応ができなかった。つまり、決められたパターン練習にすぎなかった。しかし、2学期は徐々に表現が増えてきたことでコミュニケーションをしようという姿が見られた。その結果として、自分のことを積極的に分かってもらおうとして、A判定は2名から5名。そして、みんながB以上の結果を出すことができた。
本文を繰り返し口に出して読むことで、多くの英単語にも慣れ、繰り返すことで読めるようになる。より多くの単語が読めるようになることで英語への苦手意識も軽減され、「書くこと」へのステップアップにつながるのではないかと。	Reading for Communicationのページは「基礎・基本コース」の生徒にとっては質量ともに定着まで時間を要するので、まずページ全体の意味を把握させた。音読の際にスラッシュをいれ、単語の理解からそのかたまりで読むことと意味を理解させた。音読活動ではペアを活用して決められた時間内で読めるように練習を繰り返した。	リーディングテストでクラスの全員が、決められた時間内で発音に注意しながら読むことができた。読めない時は、単語ごとに意識がいき、つまりながら読むことがあるが、スラッシュを入れたかたまりに意識がいくため、つまるところ少なくともスムーズに読むことができるようになった。単語の発音、リズムの2つの項目はおおむねできるというB判定を得ることができた。1学期よりも制限内音読と音量はA判定を得た生徒が増えた。
並べかえ問題、自由英作文の練習を繰り返すことで、正しい語順を身につけることができるようになる。その結果、自分の伝えたいことや身近な話題について「書くこと」として表現できるようになるのではないかと。	単元の文法に合わせた英作を完成させるために、並べかえ問題を活用して取り組みやすくした。その際、語順を理解させるための基礎として、簡単な自己表現をWho-What-where-whenの組合せで英作を4回練習した。その際、時間設定を5分間でできるだけ多く書くように呼びかけた。英作練習する際に、現在形、3人称単数、過去形などを指定して場面に応じた表現方法を練習した。	Who-What-where-whenの語順の定着させるために、1人称で始める作業を多くした。その結果、自分の得意な表現が複数できることで自信が付き、英作文に対する抵抗の軽減につながった。4回の練習の中で、数の変化は2~4個と大きな変動はないものの、参考シートを見ずに自分のアイデアで英作できるようになった。また、単語のスペルミスが減り、時制の使い分けに慣れ、表現が豊かになるなど、進歩が見られた。

研究の成果

1学期に行った自己表現並べかえ問題を2学期にも行い正解率を比べることにした。1.2年レベルの表現練習に重点を置いて取り組んだことにより、ほとんどの問題の正解率が上がっている。基礎・基本コースのためにwho-whatを見つけることがまず第1歩であった。並べかえ問題でもwho-whatの関係が理解できるようになったので、文頭の間違いは少なくなってきた。また、英語の基本を繰り返すことで、英語に苦手意識を持つ生徒の減少につながった。

今後の授業改善の課題

今学期のアンケートでは、英語に対する興味・関心等の項目が少し改善されたものの、根本は改善できずに英作に対する意欲もあまり変わらなかった生徒もいるのは事実。ただ基本的な表現を英語で書けるようにするために、音読、Q&Aを繰り返す作業とが上手く機能したときは英語に対する苦手意識を減らすことができたので、生徒が少しでも自信が持てる活動を考えていかなければいけない。3年生の復習も必要である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088(852)2136